

令和5年3月24日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

養父市新文化会館整備事業等特別委員会
委員長 植 村 和 好

養父市新文化会館整備事業等特別委員会調査報告書

令和2年12月25日、本特別委員会に付託された事件は調査が終了したので、次のとおり最終報告する。

記

- 1 調査年月日 令和3年1月19日(火)、3月29日(月)、6月10日(木)、8月4日(水)、11月19日(金)、令和4年4月7日(木)、6月2日(木)、8月18日(木)、令和5年2月15日(水)、3月13日(月)
- 2 調査事項 (1) 養父市新文化会館整備事業について
(2) やぶ市民交流広場周辺道路整備事業について
(3) 旧グンゼ事務所棟・宿泊棟の改修事業について
(4) 八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事について

- 3 調査内容

養父市新文化会館建設事業及び周辺施設整備事業等、本特別委員会が所管するすべての事業が完了し、本格的に各施設が供用されている。事業プロセスを振り返り、今後の大規模事業に生かすとともに、これらの施設をより良い施設にするため、前期議会において設置していた養父市文化会館(仮称)建設調査特別委員会の調査を踏まえ、本特別委員会として調査を総括し、報告する。

- (1) 養父市新文化会館整備事業について

- ・事業推進の経過について

文化会館及び公民館は総合計画の実現に必要な施設であるが、旧施設の八鹿文化会館・八鹿公民館は経年劣化に加え耐震基準構造を満たして

いなかったことから、市は市民の安全確保を最優先に捉え検討する中で、維持管理費や利便性など長期的な観点から建て替えを最善とする結果に至り、文化芸術、公民館、図書館、公園の4機能を兼ね備えた施設を新たに整備する会館建設事業がスタートした。

平成29年4月に、市民生活部に文化会館建設準備室を設け、また、多くの市民意見を反映させるため、市民会議を設置して事業計画を進めた。

議会は、これに先立ち特別委員会を設置し、事業計画をはじめ事業進捗について調査、2度にわたる申し入れを行うなど、意見や提言を行い、より良い施設整備となるよう議会機能の発揮に努めてきた。

・施設場所選定について

事業計画を推進するうえで重要かつ注目が集まる事項は、事業費と施設場所の選定である。特に、場所決定には市民意見の集約が重要であるが、市民が委員として参画した文化会館整備事業等建設基本構想策定委員会の答申を経て、旧グンゼ八鹿工場跡地（約3万㎡）に決定した。

・整備事業の推進体制について

施工業者の選定は、東京オリンピック等国家的な事業と時期が重なり、建設事業者の参加が厳しい条件であること、建設資機材及び専門職人の調達に不安があることなどから、施工業者も実施設計を提案することができる等のメリットがあるYECI（養父市型ECI）方式をCM（コンストラクション・マネジメント）方式で進めることとした。

CM方式とは、CM事業者が建設事業の総合的な支援を委託する方式であるが、施工管理は設計者の経費にも組み込まれており、多額の費用を要するCM方式の必要性に疑問の意見もあったが、工事の進捗について、コロナ禍での施工で資材、機材、専門職人の調達等経験のない事態の中、予定のオープン（令和3年9月）までに完成できたことは評価に値する。

（2）やぶ市民交流広場周辺道路整備事業について

やぶ市民交流広場周辺道路整備事業として整備した市道5路線は、幅員も広く見通しも良い環境整備となったが、一部ドライバーの路上駐車により除雪作業に支障が出るなど、新たな課題も生じている。

（3）旧グンゼ事務所棟・宿泊棟の改修事業について

旧グンゼ事務所棟・宿泊棟は県から景観形成重要建造物に指定された施設で、2期にわたって耐震工事及び改修を行った。施設は、やぶ市民交流広場

をはじめ、文化芸術施策の推進を担う、まちづくり文化交流課の事務室として2階を使用するほか、1階にフリースペースも設けている。また軽食販売店を公募により運営している。

(4) 八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事について

八鹿文化会館・八鹿公民館をコロナワクチン集団接種会場として使用したため、解体工事の着工が予定より遅れた。

着工前調査としてアスベストの使用状況の詳細調査、騒音防止対策及び第三者への安全対策などを実施し、周辺地域の協力のもと解体工事を完了した。

<まとめ>

新文化会館関連の建設事業費（用地費含む）は当初 35 億円とし、財源は国の合併特例債と市積立基金を活用する事業計画を立てていたが、用地費の増加（用地取得面積増）や物価上昇などにより 44 億 1,400 万円に増額された。最終的に解体事業費 1 億 9,475 万円を含む建設事業費精算額は約 43 億 7,700 万円となり、最終設定予算額内に収まった。

やぶ市民交流広場周辺道路整備事業費は市道既設路線のルート変更をはじめ、遊歩道の設置、幅員の拡幅、排水路整備等、市道 5 路線の整備で用地費含む 1 億 6,915 万円となった。

旧グンゼ事務所棟・宿泊棟の改修事業費は 1 期工事 6,909 万円、2 期工事 3,085 万円、総事業費 9,994 万円となっている。

これら関連事業の総事業費は約 46 億 4,600 万円となった。整備費の増額要因は、用地取得面積が施設必要面積のおおむね 2 倍になったことで用地費と用地の整備費が当初予定していた事業費を大きく上回ったことなどが挙げられる。しかし、完成後を見ると広い用地の公園化は多くの子ども達のさまざまな遊びの場となっており、今後、遊具等を設置することで、今以上に子ども達の活動場所になることが期待される。

養父市新文化会館整備事業及び周辺の関連事業は完了した。議会は前期に続き今期も特別委員会を設け、事業の推移を調査しながら提言を行ってきた。また、基本計画の策定に当たり、事業費の抑制や具体的なホールの座席数について申し入れてきた。

今後は、この施設が市民にとって交流の拠点になり、養父市の活性化に繋がるイベントの実施等、企画力が問われることになる。

現在は、多くの企画が行われ、臨時駐車場も満杯になるほどの盛況で地域活性化へ良いスタートが切れていると感じるが、運営に当たり色々な市民要

望が寄せられている。その対応・検討については真摯に向き合い、良い施設・イベント企画につなげられたい。

また、今後とも市民とともに育て上げていき、来場者から喜ばれる施設になることを希望する。